

分身ロボット OriHime による 障がい者就労モデル事業 報告書



令和7年3月
神奈川県 福祉子どもみらい局 共生推進本部室

はじめに

「津久井やまゆり園事件」を機にスタートしたモデル事業

平成 28 年 7 月 26 日、県立障害者支援施設「津久井やまゆり園」において 46 名が殺傷される大変痛ましい事件が発生しました。このような事件が二度と繰り返されることのないよう、県と県議会は、「ともに生きる社会かながわ憲章」を策定しました。

この憲章の理念に基づき、県では令和元年度から分身ロボット OriHime（以下、OriHime）を活用したモデル事業の実施により、障がい者の社会参加・就労の支援を行うことにより、共生社会の実現を目指してきました。

モデル事業の実施にあたり、令和元年度から ALS 患者である高野元さんを県共生社会アドバイザーとして、令和 4 年度から難病患者である、みさきさんを県職員（会計年度任用職員）として任用し、OriHime パイロット（※操作者）などを実践していただきながら一緒に進めてきました。

本報告書は、OriHime パイロットのお二人に加え、ご協力いただいた関係機関の皆さまからのご意見・ご感想なども含め、これまでの成果や課題をまとめています。

この取組が、障がい者の新たな就労や社会参加の形として広がることで、共生社会の実現に一歩でも近づくことを期待しています。

最後に、本事業の実施及び、報告書の制作にあたり、ご協力いただきました、皆さまに改めて厚く御礼申し上げます。

令和 7 年 3 月

ともに生きる 翔子

ともに生きる社会かながわ憲章

- 一 私たちは、あたたかい心をもって、すべての人のいのちを大切にします
- 一 私たちは、誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現します
- 一 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる壁、いかなる偏見や差別も排除します
- 一 私たちは、この憲章の実現に向けて、県民総ぐるみで取り組みます

平成 28 年 10 月 14 日
神奈川県



目次

| | |
|--|--------|
| はじめに | 2 ページ |
| 目次 | 3 ページ |
| I 準備期（令和元年度） 共生社会アドバイザーの任用 | 4 ページ |
| II 試行期（令和2年度） OriHime による試行勤務スタート | 7 ページ |
| III 本格実施期（令和4年度） 平塚市役所内での OriHime 勤務 | 11 ページ |
| IV 本格実施期（令和5年度） 小田原市役所内での OriHime 勤務 | 15 ページ |
| V 本格実施期（令和6年度） 相模原市福祉ショップでの OriHime 勤務 | 20 ページ |
| 本事業を振り返って | 25 ページ |
| 事業のまとめ | 27 ページ |
| 【資料編】 | |
| ○ Q&A | 28 ページ |
| ○ 分身ロボット OriHime（オリヒメ）とは | 29 ページ |



I 準備期（令和元年度）

共生社会アドバイザーの任用

令和元年9月、知事が県民とテーマに沿って意見交換を行う、「対話の広場」で、筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者である高野元氏が、分身ロボット OriHime を使って、自宅から遠隔で参加しました。

この出会いをきっかけに、同年10月、黒岩知事が（株）オリイ研究所が東京都内で開設した「分身ロボットカフェ」を訪問し、県は OriHime を活用した新たな取組の検討をスタートしました。

令和元年11月には、インターネット・サービス事業の開発など豊富な経験を持つ高野氏を県の非常勤職員として、「共生社会アドバイザー」を委嘱し、OriHime を活用したテレワークにより、重度の障がいがあっても活躍できることを発信し、このモデル事業の礎をつくりあげていきました。

(経歴等) 昭和40(1965)年生。平成2(1990)年3月 早稲田大学理工学部大学院修士課程卒業
平成2(1990)年4月～ NEC 中央研究所、米国スタンフォード大学 コンピュータサイエンス学科客員研究員として在籍
平成12(2000)年7月～ NEC BIGLOBE サービス事業部
平成17(2005)年1月～ 株式会社デジタルフォレスト 技術担当役員
数碼林(大連)軟件有限公司 董事・総経理
平成23(2011)年7月～ 創発計画株式会社 代表取締役
平成25(2013)年1月～ 筋萎縮性側索硬化症(ALS)発症
日本ALS協会 神奈川県支部 役員

高野 共生社会アドバイザー（県非常勤職員）の勤務内容

- 期 間 令和元年11月から令和6年3月
- 勤務日数 月2回程度（1回の会議は2時間程度）
- 業務内容 共生社会実現のための諸施策に関する助言

※このほか、令和4年12月から現在まで、庁内の「ともいきメタバース研究会」委員にも就任。

- 就業方法
 - ・ OriHime を活用した会議出席
 - ・ ZOOM によるオンラインミーティング
 - ・ ご自宅での意見交換（対面）
 - ・ 大学等での講演（出張）

OriHime を通じた定例会議

OriHime を通じて高野アドバイザーと定期的な会議を行いました。

重度障がい者の立場からの提案や、県の既存事業や取組について助言をいただきました。

【高野アドバイザー】

「障がい者自身が自分の可能性に気づいていないことも多い。様々な機会を用意して、チャレンジしてもらうことが重要」

こうした助言を受け、翌年度から「未来型障がい者就労支援等事業費」として、分身ロボットを活用した、障がい者等の新たな社会参加・就労支援を行う事業の実施が決まりました。



（OriHime を使った会議の様子）

オリ研究所と連携協定を締結

令和2年3月、神奈川県と株式会社オリ研究所は、相互で連携し、分身ロボット OriHime や新たなテクノロジーを活用した社会参加・就労の支援を図り、共生社会の実現に寄与するため、連携協定を締結しました。



(連携協定 締結式)

左から3人目 オリ研究所 代表取締役吉藤健太郎氏
高野共生社会アドバイザーも OriHime にて参加。

【連携協定記載の主な項目】

- (1) 「ともに生きる社会かながわ憲章」の理念の普及に関すること
- (2) 分身ロボットを活用した移動困難者に対する社会参加・就労の支援に関すること
- (3) 新たなテクノロジーを活用した共生社会の実現に関すること
- (4) その他共生社会の実現に資する取組に関すること

【株式会社オリ研究所について】

平成24年9月28日設立。

「人類の孤独を解消する」を理念に掲げ、障害・病気・介護・子育て等の理由で外に出ることが難しい「移動困難者」の選択肢を豊かにするサービスを研究開発・提供しています。

展開サービス：

- ・遠隔操作でありながら「その場にいる存在感」を共有できる分身ロボット「OriHime (オリヒメ) 」
- ・テレワークでの肉体的社会参加を可能にする分身ロボット「OriHime-D (オリヒメディー) 」
- ・重度障害があっても目や指先などの僅かな動きだけでコミュニケーションを可能にする意志伝達装置「OriHime eye+Switch (オリヒメアイプラススイッチ) 」
- ・外出困難者が「パイロット」として分身ロボット OriHime・OriHime-D を遠隔操作し、オーダーや配膳、お客様との会話など接客を行う「分身ロボットカフェ DAWN ver.β」
- ・テレワークに特化した障害がある方のための人材紹介サービス「FLEMEE」

(令和6年度時点)

詳しくは、株式会社オリ研究所ホームページ (<https://orylab.com/>) をご覧ください。



Ⅱ 試行期（令和２年度）

OriHime による試行勤務スタート

移動が困難な障がい者を県職員として任用し、事業を開始するにあたり、県庁庁舎及び平塚市役所内福祉ショップにおいて、オリィ研究所に所属する OriHime パイロットが試行勤務を開始し、課題抽出を行いました。



(神奈川県庁)

オリィ研究所所属 OriHime パイロットの勤務内容

■ 期 間 令和2年9月29日(火)～12月24日(木)

■ 勤務日数 61日間 1日1時間

■ OriHime 設置場所

- ① 神奈川県庁新庁舎1階ロビー
- ② 神奈川県庁新庁舎1階「ともしびショップ」(福祉ショップ)
- ③ 平塚市役所本館1階ひらつか障がい者福祉ショップ「ありがとう」

■ 業務内容

- ・ 来訪者等の受付・案内、アルコール消毒の呼び掛け
- ・ とともに生きる社会かながわ憲章の普及啓発、憲章グッズの説明

■ 就業方法 ・ OriHime を活用したテレワーク

設置場所①～③の評価

県庁舎内2か所と平塚市役所内福祉ショップ1か所に OriHime を設置し、約3か月間、来庁者への呼びかけ等の業務を実施し、今後の本格実施に向けて、各設置場所別に、良かった点や課題等を整理しました。

設置場所としては、来客数が多く、設置先のスタッフともコミュニケーションが取りやすい環境が適していることを把握しました。

また、目的地のある・先を急ぐ通行人には、OriHime を通じて声をかけても、足を止めて話を聞いてもらうことは難しく、相手方にある程度、時間的に余裕のある状態が必要であること、さらに、サポートできる職員が常時設置先の近くにいること、通信が維持されている環境であることが重要であることがわかりました。

① 神奈川県庁新庁舎1階ロビー

| 良かった点 | 課題 |
|-------------------------------|--|
| ・アルコール消毒のお願いなどの、呼びかけでは有効であった。 | ・場所柄、急いでいる方が多く、用件が終わると足早に立ち去ってしまう。 ・双方向での会話ができないため、「憲章」の説明は困難だった。 |

② 神奈川県庁舎内の福祉ショップ

| 良かった点 | 課題 |
|---|---|
| ・ショップスタッフの方が、パイロットを仲間として温かく迎えてくれ、一緒に仕事をすることが、とても有意義な経験となった。 | ・ショップ入口付近で立ち止まる人はめったにおらず、接客機会が少ないため、「憲章」の普及啓発は十分にできず、やりがいを感じられなかった。 |

③ 平塚市役所内の福祉ショップ

| 良かった点 | 課題 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ ショップスタッフの方が4～5人常時側にいて、会話をしながら仕事をしていたので、まさに仲間としてその場で一緒に働いているという実感があった。 ・ 来客が多く、多くの方とコミュニケーションが取れた。「憲章」の普及啓発に加え、自己紹介を通じて、OriHimeを活用した働くことの意義も伝えることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 来客者と日常会話で終わってしまうことが多かった。「憲章」の普及啓発に結び付けるために、工夫をする必要がある。 ・ 勤務場所が県庁ではないため県、市、設置場所である福祉ショップ側での役割分担や労務管理についての整理が必要である。 |

OriHime パイロットとして勤務するために必要な要件の整理

オリイ研究所に所属する OriHime パイロットの勤務状況や意見等を参考に、今後、県が直接パイロットを雇用するにあたり、必要と思われる要件をまとめました。



【求められるスキルなどの要件】

- ・パソコン、タブレット等の端末で、OriHime 操作用アプリを操作できる
- ・自宅等にインターネットに環境がある
- ・コミュニケーションの基本となる言葉遣いなどの対人スキルがある
- ・体調管理ができて原則、決められた日や時間に勤務できる

OriHime パイロット募集・採用

試行実施結果を踏まえ、OriHime を設置し、事業を実施するための要件を満たし、設置に前向きであった、ひらつか障がい者福祉ショップ「ありがとう」（平塚市役所内）を勤務地とし、本格実施に向けてパイロットの募集を行いました。

※令和2年度の試行を受け、翌年度から直接雇用を開始する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和3年度は実施を見送りました。

令和4年3月にハローワークの障害者求人を利用して以下の条件で OriHime パイロットとして勤務する県職員（会計年度任用職員）を募集しました。

| | |
|--------|---|
| 【採用人数】 | 1名 |
| 【給料】 | 時給 1046円～1351円 (県会計年度任用職員の基準による) |
| 【勤務条件】 | 1日3時間(週3日を上限) ※ 1日1時間、週1日から体調や希望を考慮して協議の上で決定 |
| 【業務内容】 | ともに生きる社会かながわ憲章の普及啓発 など |

※複数名の応募者の中から1名の採用を決定

平塚市との事前調整

勤務開始に先立ち、OriHime 設置場所となる福祉ショップ、平塚市と県の役割分担を整理しました。

| | 役割 | 費用負担 | 労務管理等 |
|------------|--|------------------------------------|---|
| 市役所内福祉ショップ | <ul style="list-style-type: none"> • OriHime の起動コンセンとの接続 • 同僚としての声かけ | なし | なし |
| 平塚市 | <ul style="list-style-type: none"> • 福祉ショップの補助など • OriHime 本体の保管・管理 | なし (電源については市負担) | なし |
| 神奈川県 | 上記を除く全て ※ OriHime の保守管理、破損時の損害賠償は原則県が負担。(故意または重過失により生じた場合を除く) | 全額負担 (OriHime 賃貸料 ・パイロット人件費) | 実施(毎日) [労務管理内容] 始業・終業時メール報告 月1回面談(Zoom) 市役所訪問(随時) |



Ⅲ 本格実施期（令和4年度）

平塚市役所内での OriHime 勤務

OriHime パイロットとして新たに採用した県職員（会計年度任用職員）が、平塚市役所内ひらつか障がい者福祉ショップ「ありがとう」で勤務を開始しました。

勤務開始に先駆け、OriHime の操作手順の確認、「ともに生きる社会かながわ憲章」の理念や接客に必要な商品知識などを学ぶ研修期間を設け、無理のないように進めていきました。

事業開始後には複数の取材が入るなど、地元を中心に認知度が徐々に高まり、来庁者や市職員との会話回数も増え、パイロットの接客技量も向上し、「憲章」の PR 業務を積極的に実施しました。

平塚市は七夕まつりが有名なこともあり、多くの来庁者や職員・スタッフが「織姫」と同じ名称である OriHime に親しみをもって接してくれました。

県 会計年度任用職員 OriHime パイロットの勤務内容（平塚市役所）

- 期 間 令和4年5月16日（月曜日）から令和5年3月31日（金曜日）まで
※事前準備期間：令和4年4月18日（月曜日）から5月13日（金曜日）まで
- 勤務概要 勤務日数 : 140日（うち「ありがとう」における OriHime での勤務は130日）
勤務日・時間：毎週月曜日、水曜日及び金曜日の10時30分から14時30分まで
（1日3時間・うち1時間昼休憩）
- OriHime 設置場所 平塚市役所本館1階ひらつか障がい者福祉ショップ「ありがとう」
- 業務内容 ・ともに生きる社会かながわ憲章の普及啓発
・店舗の接客・販売補助
- 就業方法 ・OriHime を活用したテレワーク

事前準備（研修実施）

OriHime での勤務開始にあたり、約1カ月の研修期間を設け、OriHime の操作方法の確認、「憲章」の理念や、本事業の趣旨の理解、県が作成した業務マニュアル（台本）を使用した来客者対応のロールプレイなどを、オンラインで行いました。

福祉ショップでの接客

平日午前10時から午後3時半まで市役所内フロアで、市内の障害福祉サービス事業所が製造するパンやお菓子、小物などを販売する福祉ショップ「ありがとう」において、レジ待ちのお客様に OriHime を通じて話しかけ、クイズパネルを使いながら、「憲章」について説明しました。

【マニュアル記載の台本（一部）】

1 声掛け

※ お客様を呼び込むため、お客様が近くにいないときも含め、声掛けをお願いします。

<基本のセリフ>

- 「こんにちは。私は今自宅から、この分身ロボット OriHime を通じて、お話しています。」
- 「ロボットを使って、障がいがあっても、自宅からこうして働いています。」

2 「憲章」の普及啓発等

※ 近くに来た方には、「憲章」の説明など普及啓発を行ってください。

<基本のセリフ>

- 「神奈川県では、ともに生きる社会かながわ憲章を定めていますが、ご存じですか。」
- 「『憲章』は、誰もがその人らしく暮らせる社会を目指すものです。」
- 「私がこうして OriHime を使って県職員として働いているのも、そのモデルのひとつです。」

（みさきさん）

「ランチタイムを中心に行列ができるほど盛況です。接客をしながら、いかに多くのお客様に「憲章」を PR できるかを検討し、「憲章クイズ」を実施することとしました。一見すると、他のロボットのように AI が操作していると思われることが多くありました。趣旨を説明したパネルを作成して掲示し、パネルを見ていただきながら、私が自宅から OriHime を介して話をしていることを伝えました。」



初めまして！
OriHimeロボットの**みさき**です！
私は病気のため※1外に出て仕事をすることがとても困難です。

そのため、分身ロボットOriHimeを自宅から操作し、
神奈川県の非常勤職員として仕事をしています。
人とお話しすることが大好きなので、
ぜひ話しかけてください！

みーちゃんと呼んでくれたらとっても嬉しいです！
※1 自己免疫性体位性頸脈症候群、筋痛性脳脊髄炎という病気です。



自宅から遠隔操作
しています！

神奈川県の非常勤職員として、
分身ロボットOriHime(オリヒメ)を使用して
「ともに生きる社会かながわ憲章」
のPRの仕事をしています。

この事業は、神奈川県が平塚市の協力の下、行っています。

(パイロット紹介パネル)

〇〇〇〇〇社会かながわ〇〇

- 私たちは、あたたかい心をもって、すべての人のいのちを大切にします
- 私たちは、誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現します
- 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる壁、いかなる偏見や差別も排除します
- 私たちは、この憲章の実現に向けて、県民総ぐるみで取り組みます

平成28年10月14日
神奈川県

ともに生きる:
正解者に景品プレゼント！ぜひご参加ください！

(「憲章」クイズ)

ねんりんピックかながわ 2022

全国健康福祉祭（ねんりんピック）は、60歳以上の高齢者を中心とするゲートボールや卓球、テニスなどの各種スポーツ競技や美術展、音楽文化祭などの文化イベントや健康福祉機器展など、あらゆる世代の人たちが楽しめる総合的な祭典です。

令和4年11月12日(土)～11月15日(火)神奈川県内26市町で各種競技大会が繰り広げられました。

その中の県の「未病改善」ブースにて、障がい者の社会参加モデルとしてOriHimeを紹介しました。

(みさきさん)

「ねんりんピックでは、三笠宮彬子女王殿下に OriHime を通じてご挨拶をさせていただきました。とても緊張しましたが、私が作った OriHime の服を『可愛いですね』と褒めてくださり、とても光栄でした。また、平塚市で行われた、ひらつか交流大会では、障がい者福祉ショップ「ありがとう」の出張販売にご一緒しました。来場した選手や家族の皆さんに、『こんな働き方があるんだね。』と声をかけてもらい、県での取組を全国からいらした皆さんに知っていただくことができました。」



(みさきさん手作りの服を着た OriHime)

【関係者からのメッセージ】

**ひらつか障がい者福祉ショップ「ありがとう」運営協議会
会長 高橋 眞木 様より**

OriHime を知ったのは、令和 2 年に平塚市障がい福祉課から試行の話がきた時でした。戸惑いもありましたが、試行で全国各地から選ばれたパイロットの方々と話していくうちに、だんだん気持ちが通じ合っていました。重度の障がいによって外に出て働くことができなかった人たちが、OriHime で自分の心にあるものを、心の中から外に出していくことができる場所に、とても感動しました。



令和 4 年のみさきさんとの 1 年間は、本当に楽しかったです。みさきさんがたくさんの方の心を掴んで、いろんなお話を引き出している姿を見て、パイロットの人の力で、さまざまな仕事や役割を担っていけると可能性を感じました。

また、「ありがとう」のスタッフが当事者の皆様とチームを組んでつくっているラジオ番組、FM 湘南ナパサ 78.3MHz「バリア！ フリフリ天国」(毎週月曜日 20:00～20:30)において、OriHime の活動やみさきさんへのインタビューを複数回紹介して「ともに生きる社会」を啓発することができました。

みさきさんを通じて、子どもからご高齢の方まで、たくさんの方に OriHime の存在がしっかりと伝わったと思います。一方で、何を目的としてどのように仕事をするのか、どのような仕事ならパイロットが力を発揮できるのか、パイロットとサポートをする人たちが、お互いに理解をする必要があると思いました。

福祉ショップ「ありがとう」の 10 周年記念式典(令和 6 年 8 月 7 日開催)において、OriHime のみさきさんが遠隔でありながらも総合司会を務めていただき、式典は大盛況で成功を収めました。行事、イベント等の参加で、活躍の場が広がるヒントになりました。

障がいのある方が働くということは、非常に大きなハードルを越えなければいけません。OriHime を使って、障がいのある人自身が、共に生きる、共に働く、共生社会をつくりあげるところにおいて、OriHime の存在は非常に大きな役割を持っていると思います。家から出ることのできない重度障がいの方は、OriHime を通じて話すことによって、身近に世間や社会との接点がかめていくのではないのでしょうか。

この取組を拡大して、多くの方々に OriHime を活用して欲しいと思います。そして OriHime の存在価値を高めていただいて、障がいを持った人たちへの希望の星になって欲しいです。



IV 本格実施期（令和5年度）

小田原市役所内での OriHime 勤務

令和5年度は、小田原市役所障がい福祉課の窓口にて OriHime を設置し、窓口案内や「憲章」の普及啓発等の業務を実施しました。

OriHime パイロット2年目は、業務に慣れ、仕事への意欲も増したことから、通常の業務に加え、市が主催するイベントへの出展、また、OriHime を通じて県職員自らの経験や思いを発表する講演を行う等、より多くの方に本取組を伝える機会を増やすことができました。



(小田原城)

県 会計年度任用職員 OriHime パイロットの勤務内容（小田原市役所）

- 期 間 令和5年5月25日（木曜日）から令和6年3月29日（金曜日）まで
- 勤務概要 勤務日数 : 149日
勤務日・時間：毎週火曜日、木曜日、金曜日9時30分から13時まで
(1日3時間・うち30分昼休憩)
- OriHime 設置場所 小田原市役所障がい福祉課窓口
- 業務内容
 - ・「ともに生きる社会かながわ憲章」のPR
 - ・市役所窓口での受付番号の案内
 - ・臨時福祉ショップにおける、接客・販売の補助
- 就業方法 ・OriHime を活用したテレワーク

障がい福祉課の窓口業務

各種手続きや相談のため障がい福祉課に訪れた方に「番号札をお取りいただき、呼び出しボタンを押してお待ちください」という声掛けや、書類を提出をする方への案内等を行いました。

日によって変わりますが、障がい福祉課の窓口には、1日概ね20～30名くらいの来庁者がありました。

（みさきさん）

「昨年度までの福祉ショップでの業務内容とは異なり、『いらっやいませ』ではなく、声掛けの仕方も業務をする中で工夫する必要がありました。

また、窓口の順番を待つ間に、OriHime という働き方の紹介や、OriHime のすぐ近くに「憲章」のチラシやグッズを置いて、手に取っていただくよう話しかけ、「憲章」のPR活動を行いました。『初めて OriHime を知った。私もあなたのように OriHime として働いてみたい』といった声もありました。」



（障がい福祉課窓口での対応）

（みさきさん）

「出店している障害福祉サービス事業所の障がいのあるスタッフと一緒に接客し、自分の得意な分野で活躍している方々の姿を目の当たりにし、『自分ももっと頑張りたい』という意欲が湧きました。」



（臨時ショップでの接客）

臨時福祉ショップでの接客

前年度の福祉ショップでの経験を活かし、市役所内に日替わりで市内の障害福祉サービス事業所が出店する臨時福祉ショップコーナーがあり、お昼休みの時間にパン、お菓子、雑貨の販売の接客も行いました。

学校での講演

県では、障がい当事者の方を講師として、小学校から高校までの各学校に出向き、「ともに生きる社会かながわ憲章」や「当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を目指して～」を紹介し、当事者目線の障がい福祉に関する出前講座を実施しています。

令和5年度は秦野市立東中学校全校生徒に向けて、当該授業を行いました。

また、関東学院大学において、OriHimeを通じて、本事業の目的の説明、パイロットとして就労し感じていることや気づき等、本取組が共生社会実現の一步となることについて、講義を行いました。

(みさきさん)

「令和5年に講演した秦野市立東中学校では、進路の悩みなどがある年代であると考え、『順調な人生でなくても大丈夫！真つすぐの道以外にもたくさんの選択肢があるよ！』ということを伝えました。

後日、生徒から講義の感想文が届き、『病気になっても前を向いて生きているみさきさんを見て、自分も生きる気力が湧いた』、『自分も嫌なことがたくさんあるけれど、楽しく生きていきたいなと思った』という言葉がありました。中学生ならではの悩みや生きづらさを感じる時期に、OriHimeという新たな社会参加や就労の仕方、また私自身の経験や思いを知ること、前向きな気持ちになってもらえたのではないかと思います。」



(秦野市立東中学校全校生徒授業)

ともに生きる社会かながわ憲章 PR 業務

県では、津久井やまゆり園事件が起きた7月26日を挟む1週間を、「ともに生きる社会かながわ推進週間」と定め、「憲章」の普及啓発に特に力を入れています。

県の広報ラジオ番組であるFMヨコハマのKANAGAWA Muffin（かながわマフィン）に出演。デジタルを活用した新たな働き方の発信及び「憲章」をPRしました。

(みさきさん)

「ともに生きる社会かながわ推進週間に、ラジオの人気番組に出演することで、多くの方に OriHime の取組を知っていただく機会となりました。OriHime がスタジオにいて、あたかも私自身がその場で出演しているような温かな雰囲気でお話させていただきました。」



(FMヨコハマスタジオにて)

国際協力機構(JICA)での講演

令和 6 年 1 月、国際協力機構 (JICA) 横浜センターが実施する「2023 年度 JICA 日系社会次世代育成研修 (中学生招へいプログラム)」において、南米 5 か国 (アルゼンチン、パラグアイ、ブラジル、ペルー、ボリビア) から来た中学生に、OriHime を通じて、「憲章」の理念や OriHime の取組を紹介し、共生社会について考える講義を行いました。

株式会社オリ研究所が東京・日本橋で運営する分身ロボットカフェも外国人の人気スポットとなっていますが、共生社会の実現に向けた日本の技術力は、海を越えて称賛と共感を生み出しています。

(みさきさん)

「初めは、OriHime に驚いていましたが、病気になった経緯や『憲章』の理念、OriHime の仕組みなどを説明すると興味を持ってくれ、日本語と英語で交流しました。後日、「帰ったら多くの人に OriHime を伝えたい」というメッセージを手紙でいただきました。さらに、プログラムに参加したパラグアイの生徒が帰国報告会で、OriHime を活用した県の取組を報告してくれ、OriHime の取組が海を超えて伝わったことがとても嬉しかったです。」



(日系中学生に向けた講義)

【関係者からのメッセージ】

小田原市役所障がい福祉課 山口 晃太郎様より

小田原市と OriHime との出会いは、令和 4 年に本市で実施された「ユニバーサルまち歩き」でした。外出が難しい障がい者にもまち歩きを体験できるようにと OriHime が活用され、参加した障がい福祉課の職員がその存在を目の当たりにしました。また本市では、誰もがその人らしく生きいきと暮らすことができる共生社会の実現を目指すため、共生社会推進本部を設置しています。神奈川県から OriHime の設置についてご提案をいただいた際は、本市の取組みにも活かしていきたいとの考えもあり、受諾させていただきました。

設置にあたっては、昨年度に福祉ショップで接客業務の経験があったこと、まずは OriHime を広く市民の方々に知っていただくことが共生社会の実現につながると考え、当課窓口前で昼休み時間に実施されていた、福祉事業所による庁舎内販売に設置することになりました。加えて、窓口業務での活用についても検討し、庁舎内販売時間以外には受付窓口にて、お客様に番号札の取得と呼び出しボタンの使用を案内する業務をお願いすることになりました。庁舎内販売では、福祉事業所の職員や利用者の笑顔が増え、販売会場は賑やかになりました。OriHime の存在が目を引き、以前よりもお客様が増えたとの声もありました。窓口での案内業務でも、様々なお客様に対して丁寧な案内を行い活躍してくれました。設置を終えた今、職員から昨年度より窓口の利用方法の案内をすることが増えたとの声もあり、改めて OriHime が活躍してくれていたことを実感しています。

OriHime の活用を考える上で我々が重要視していたのが、設置することを目的としないことでした。OriHime は当課のスタッフの一員であり、市民や我々職員にとっても必要な存在であると感じてもらえるような環境づくりを目指しました。窓口業務では、提出書類の確認対応なども試案しましたが、映像で確認することの限界もあり断念しました。また、OriHime の強みであるコミュニケーションを活かし、観光施設での案内業務などの可能性もあったのではないかと思います。限られた期間で全庁的な調整や実践ができなかったことは課題として残りました。

OriHime の強みを活かし、その活用方法の検討や環境づくりを進めることは、障がい者雇用を始めとした多様な人材を活用する職場づくりと同じであり、決して特別なことではないと感じています。今後も分身ロボットが活躍できるような社会の実現を目指していきたいと思えます。



V 本格実施期（令和6年度）

相模原市福祉ショップでの OriHime 勤務

令和6年度は、県内の市町村を対象に OriHime の実施希望を募り、応募のあった相模原市立あじさい会館内にある福祉ショップ「ハンドメイドショップ バオバブ」で「憲章」普及等の業務を実施しました。

また、事業内容をまとめた報告書作成に向けて、テレワークによる事務を実施しました。

OriHime パイロット3年目は、通常のショップでの業務のほかに、研修講師や学校での講演、県の「共生社会実践セミナー」での活動報告等、OriHime を活用した取組の周知に特に力を入れました。共生社会の実現に対する自らの考えや思い、また今後の展望などについても発信しました。



(相模原市役所前さくら通り)

県 会計年度任用職員 OriHime パイロットの勤務内容（相模原市福祉ショップ）

- 期 間 令和6年4月4日（木曜日）から令和7年3月27日（木曜日）まで
- 勤務概要
 - 勤務日数 : 150 日
 - 勤務日・時間：
 - 【OriHime パイロットとしての勤務】
 - 毎週火曜日、木曜日 11 時から 15 時まで（1 日 3 時間・うち 1 時間昼休憩）
 - 【パソコンを使用した事務作業】
 - 毎週金曜日 11 時から 15 時まで（1 日 3 時間・うち 1 時間昼休憩）
- OriHime 設置場所 ハンドメイドショップバオバブ（相模原市立あじさい会館内）
- 業務内容
 - 【OriHime パイロットとしての勤務】
 - ともに生きる社会かながわ憲章の普及啓発、憲章グッズの説明
 - 【パソコンを使用した事務作業】
 - 講演台本及びパワーポイント作成、報告書作成 など
- 就業方法 ・OriHime を活用したテレワーク ・パソコンを使用したテレワーク など

福祉ショップでの接客業務

ハンドメイドショップバオバブは、広い店内に障がいのある方が作ったクオリティの高い商品が数多くあり、お客様以外にも同じ建物に勤務する職員の方や納品にきた方などたくさんの方々が来店し、OriHime を活用したコミュニケーション業務を実施するには、適した環境でした。

（みさきさん）

「バオバブでは、障害福祉サービス事業所で働く方たちが、事業所で作った商品を納品に来ます。納品に来てくださる事業所の皆さんと挨拶をしたり、お話ができることも、いつも楽しみでした。皆さんが商品を OriHime の前で見せて下さることもあり、自宅で OriHime を操作しているパソコン画面にも、手作りならではの温かな商品の数々が映り、皆さんの才能と活躍に、私ももっと頑張らないと！という気持ちになりました。」



（みさきさん手作りの衣装で接客）

市職員、市民向け研修会講師

令和6年7月、相模原市の職員研修（地域包括ケア推進部職場研修）にて、県立津久井やまゆり園園長の講演後、OriHimeによる研修講師として、講演を行いました。

同年9月には、社会福祉法人相模原市社会福祉事業団主催、「市民向け研修会」でも講演を行いました。

学校での講演

令和6年度は、川崎市立久末小学校4年生に、ウエイズトヨタ神奈川株式会社等が実施する「福祉車両車いす体験授業」と連携し、「憲章」に関する授業を行いました。

また、12月には、相模原市社会福祉協議会と当事者目線の障がい福祉に関する学校出前講座が連携し、相模原市立小山中学校全校生徒に向けた福祉授業で、OriHimeを活用した県の取組を紹介しました。

（みさきさん）

「自身の病気や症状、OriHimeで働くことの楽しさ、嬉しさ、また課題について話しました。私が就職活動をしていた2021年から22年は、法定雇用率を満たす最低週20時間以上勤務の求人が多く、体力的に長時間勤務の求人には応募ができず、苦慮しました。私だけでなく、病気や障がいなど様々な理由で、長時間勤務や通勤することが困難な人がいらっしゃることを考え、短時間、在宅で活躍できる場が更に増えて行くことを望んでいます。OriHimeでの働き方を知っていただくことで、共生社会の実現に向けた一歩になれば嬉しいです。」

（みさきさん）

<川崎市立久末小学校授業>

「外出が困難である私が、OriHimeを自宅から遠隔操作をしていること、電動車いすを利用していることを理解した生徒たちからは、車いす体験授業で実際に車いすに乗り、動かしたことで、『車いすを使用する日常生活で大変なことはないか』『どんなことをしてもらったら嬉しいか』といった思いや質問がありました。相手の立場に立った行動を起こす原動力となったとしたら嬉しいと思いました。」



（川崎市立久末小学校での授業）

<相模原市立小山中学校授業>

「OriHimeを操作する画面上に、700名もの生徒の熱い視線が映し出され、『これだけ多くの生徒一人一人に、OriHimeを介して伝わるのだろうか』と不安に思いましたが、声を発信すると、どよめきが起こり、興味深く話を聞いてくれました。『OriHimeで働くことの楽しさや大変なことは何か』『自宅で操作を行うのは一人だと思うが、チームで働いていると感じるにはどのような工夫をしているのか？』といった活発な質問がありました。後日、無人販売やセルフレジの案内などたくさんの新たなOriHimeの活用法のアイデアや、ともに生きることの大切さに気づくことができたとの感想文が寄せられ、OriHimeを通じて共生社会について伝えることができたと思います。」

共生社会実践セミナーでの発表

12月14日(土)県庁にて、共生社会を自分事として考え、実現に向けた行動を実践する7大学、1高校による活動発表を行う県主催の「共生社会実践セミナー」を開催しました。

この中で、県からも OriHime を活用した3年間の取組の報告を行いました。

参加者からは、

「外出が困難な方でも、人、社会とのつながりができるということが印象に残りました。」

「外出が困難な方がいかに外に出られるようになるかでなく、家にいたままでも良い、という新たな視点を見つけることができました。」

「メタバースなどオンライン上での関わりは今後広がってほしい。」

「同世代のみさきさんが、自分なりの形で社会に参加している姿に勇気をもらいました。」

などの感想がありました。

(みさきさん)

「OriHime を介さず、私自身が会場にて、初めて大勢の前で発表するということでとても緊張する中、この3年間の活動を通して考えた「ともに生きる社会」実現のための提案(子供への教育の重要性など)を発表しました。

大学生、高校生の熱気あふれる発表をお聞きし、異なる立場、異なる環境であっても、同じように「ともに生きる社会」を目指し、それぞれの出来ること、やり方で実践をしていることに感動を覚えました。

業務では、一人で OriHime を操作し「憲章」を PR していますが、このようにたくさんの仲間が、同じ思いで「憲章」の理念実現のために行動をしていることを知り、とても心強く思いました。」



(共生社会実践セミナー)

【関係者からのメッセージ】

相模原市障害者地域作業所等連絡協議会 水野 美晴 様より

令和6年度、相模原市にて OriHime を迎えることができ、スタッフ一同とても喜びました。

バオバブを運営している「相模原市障害者地域作業所等連絡協議会」ではバオバブを就労が困難な方の社会参加の就労の場とし、市民の人との交流の場として位置付けています。OriHime にて働く方の事を知り、バオバブの理念に一致すると思い、ぜひ勤務していただきたいと思いました。

はじめはスタッフも OriHime の接続に戸惑っていましたが、徐々になれていきました。バオバブには障がい者の方がお当番さんとして毎日1名から2名働いております。とてもみさきさんの声がかわいいので当初は恥ずかしがっていましたが、今では一緒に働く仲間として接しています。納品に来た福祉サービス事業所職員、利用者さんもみさきさんがいない日は「なんでお休みなのか？」と残念がっております。

市民の方からは「ロボットではないのですね？」と驚かれる方もいましたが、遠隔にてこうして働くことができるということにとっても感銘して、みさきさんと話されている方も多くなりました。みさきさん、OriHime の活動をもっと周知するにはどうしたらよいかというのが課題であり、OriHime の活動、「憲章」が広く多くの方に知ってもらえるようにと思い、共に活動してきました。

OriHime の活動を知り、またパイロットのみさきさんご縁があったおかげで、多くのことをバオバブに係る皆が学ぶことができました。「相模原市民向け研修会」の中では、参加した当事者さんが、様々な思いを感じながらも、前向きに頑張っているみさきさんの姿に深く共感し、「私も頑張ろう」と思ったと話していました。

障がいをお持ちの方々が、共感し共有できることがあらためて素敵なことだと思いましたが、障がいがある、なしに関係なく皆がともに考える、共感できる、生活できるそんな日々になることを祈りたいと思います。

みさきさんの明るい素敵な声に、皆が喜んだ一年に感謝です。
今後の活躍も応援しています。

【関係者からのメッセージ】

相模原市役所 健康福祉局 高齢・障害者福祉課 中村 祐太郎 様より

令和5年度に、神奈川県より分身ロボット「OriHime」を活用した障がい者の社会参加・就労の支援の取組みについてご提案をいただき、みさきさんには令和6年度の1年間「OriHime パイロット」として、バオバブにて勤務していただいています。

バオバブでの勤務以外にも、市職員向けの「障害者差別解消研修」における講師やパラスポーツ体験会の受付補助を務めていただくなどご活躍いただいています。研修講師の際には、OriHime を通じた共生社会の取組について、受講者にとってわかりやすくお話しいただいたほか、パラスポーツ体験会の受付補助の際にも、来場した方に親しみやすく接遇対応を行っていただき、障がいの理解促進に努めていただいています。

本市としても、今回みさきさんに勤務していただいたことから得た知識や経験を活かし、障がいの理解促進や障がい者の就労支援を進めていきたいと考えています。

本事業を振り返って

株式会社オリ研究所 吉藤オリ 様より

私は昔不登校だった経験から18歳の頃に人生の研究テーマを「人類の孤独の解消」とし、22歳の頃、分身ロボット OriHime を発表しました。

2012年に株式会社オリ研究所を設立、2021年6月には、「分身ロボットカフェ DAWN ver.β」を常設実験店としてオープンし、現在は90名を超える OriHime パイロットが勤務しています。

OriHime パイロットの中には突然難病になり身体のほんのわずかな部分しか動かせなくなった人や、生まれつき寝たきり状態の人、突然の事故によって頸髄損傷になり首から下が動かせなくなった人もいます。

また、当事者ではないが介護する為に外出ができない、あるいは海外に住んでいる人もいます。共通することは「移動困難者であることで、就労ができていない人達」であるということです。

現在、神奈川県での取り組み含め、移動困難者の方が分身ロボットカフェで培った技術やノウハウを用い、カフェ以外でも働くことができる場の創出を目指しています。今後、移動困難者の「移動」「対話」「役割」の課題を解決し、就労の場を広げることや様々な取り組みを通じて、“選択肢のない孤独”が解消される世界を実現すべく、今後も研究を続けてまいります。



神奈川県共生社会アドバイザー（令和元年度～令和5年度）

神奈川県ともいきアドバイザー

日本 ALS 協会副会長・神奈川難病団体連絡協議会理事長（現職）

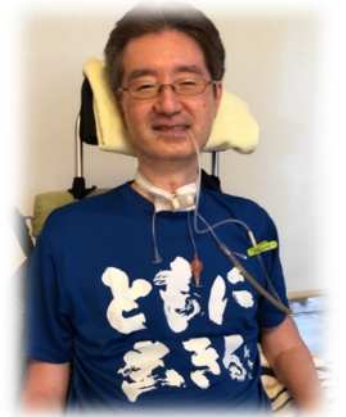
高野 元 様より

私は筋萎縮性側索硬化症 ALS の患者で、すでに発話不能で全身もほとんど動きません。2014年に49歳で告知を受けたあと、2017年に誤嚥防止・気管切開手術を受けました。これで脳に十分な酸素が行くようになって、なんとか社会参加ができないものかと試行錯誤を始めました。分身ロボット OriHime の活用も試して、2018年8月に開催された第1回分身ロボットカフェではパイロットを務めました。

これがきっかけとなり、黒岩知事との「対話の広場」への OriHime 参加を経て、2019年11月に共生社会アドバイザーを委嘱されることとなりました。当初は私も県庁職員も、どうしたら良いのか試行錯誤が続きました。とりえず OriHime を使ってリモートでの会話を楽しむことから始めましたが、県庁側には戸惑いもありました。特に私の表情が見えないことに不安を感じていたようでしたが、そこは OriHime のさまざまな動作が補完してくれました。一方で、視線入力でテキストを打ってから音声合成で発話する私は、相手を待たせてしまうことが悩みでした。対策として画面共有ソフトを使って、テキスト入力を見てもらいつつ待ってもらう形になりました。

OriHime 会議で密な議論ができるようになり、成果物を出そうと準備をしていた頃にコロナ禍が始まりました。県庁職員も在宅勤務が増えて、自宅から会議に参加するようになりました。私とのリモート会議に慣れていた職員は、この変化にいち早く対応していましたが、こうなると2拠点での会議しかできない OriHime では対応できず、ZOOM に移行することになりました。

難病による重度障害者にとっては、体を維持して日常生活を送ることすら一苦労ですが、生きるモチベーションを保つためにも社会参加の機会が必要です。「ALS で働くなんて無理」という社会の思い込みを OriHime が壊してくれて、県庁職員として働くという機会を拓いてくれました。そのおかげで私は様々な社会参加をしながら、今も元気に暮らしています。



神奈川県共生推進本部室 会計年度任用職員 みさきさん より

私は高校1年生になってすぐの頃に、高アドレナリン性体位性頻脈症候群を発症しました。立位と座位で酷い頻脈が起こり、食事を摂るのもつらい状態でした。なんとか歩くことはできましたが、全日制の高校に通うのは難しく、高校一年生の秋に通信制高校に転校しました。

通信制高校卒業後は大学に進学をしましたが、長時間歩くことが難しかったので、主治医の診断書を提出し、キャンパス内で車椅子を使用したいと申し出ましたが、「キャンパスの中に歩道橋があって、その歩道橋は車椅子だと登るのが難しい。車椅子で入れない教室もあるから、歩けるのなら歩いてほしい。」と言われてしまいました。

当時は障害者手帳を持ってないから配慮が受けられないのは仕方ないと諦め、無理をして歩き続けたところ、病状が悪化し、ほぼ寝たきりの状態になってしまいました。

1年ほど治療を行っても改善されず、新たに筋痛性脳脊髄炎と線維筋痛症の診断も受けました。

そして、このままの状態生きていくことはできないと思い、身体障害者手帳を取得しました。

身体障害者手帳を取得した後は在宅訓練が可能な就労移行支援事業所で、PCスキルを学びながら仕事を探していました。

そんな時に、分身ロボットカフェの特集を拝見しました。

私は病気を発症する前は、服や化粧品などの商品を販売する接客のお仕事をしたいと思っていましたが、外出が困難になってからは諦めていました。ですが、OriHimeを使えば自宅にいながらも接客のお仕事ができるのだと知り、私もOriHimeを使って働いてみたいと思うようになりました。

そしてハローワークの障害者雇用の窓口で、神奈川県共生推進本部室が出している分身ロボット OriHimeパイロットの求人を見つけて、まさに自分にあった求人だと思いました。

採用が決まった時は、社会とのつながりができると思い、とても嬉しかったのと同時に、今までお仕事をすることがほとんどなく、OriHimeを使用したこともなかったため、大きな不安がありました。

不安な気持ちで臨んだ研修で初めて OriHime の操作をしましたが、遠隔でも相手の顔がはっきり見えて、楽しくコミュニケーションを取ることができ、とても感動したのを覚えています。

操作自体は思っていたよりも簡単でしたが、操作をしながら会話をするのが少し難しいと感じました。

研修の後は、OriHimeがあればたくさんの方と関わりながら働くことができると実感し、前向きな気持ちで業務をスタートすることができました。

OriHime での仕事を通じて、社会とのつながりを持ち、たくさんの方と関わりながら働けることが本当に嬉しかったです。数年前、外にほとんど出られず、もう健常者に戻れないと絶望し、家族以外の人と話せなかった生活を思うと、夢のような3年間でした。

OriHime を通じてたくさんの方の経験をさせていただくことができ、私は本当に幸せ者だと思います。温かくサポートしてくださった方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。

病気や障がい以外で外出困難な人にとって、OriHime は本当に素晴らしいツールだと思います。私が勤務をしているときも、障がい当事者の方から、「自分も OriHime を使って働いてみたい」と言われることが何度もありました。

また、病気や障がい以外でも、様々な理由で外に出て長時間働くことができない人がいると思います。

OriHime で仕事をしたり、在宅での時短勤務など、様々な働き方が増えたら、就労機会の拡大につながると思います。接客や案内など OriHime を活用できる場所は多いと思うので、OriHime を導入する企業が増えていくと嬉しいです。

最後に、私は OriHime を通じて、たくさんの方と関わることで、福祉の勉強をしてみたいと思うようになりました。もう少し体力に自信がついたら、福祉大学に通う予定です。体力的に大学に毎日通うことは難しいので、通信制の大学か、OriHime で授業に出席させてもらうことができればと思っています。

OriHime パイロットの経験を活かしながら、「ともに生きる社会」の実現に向けて、これからも私のできることを精一杯頑張りたいです。

事業のまとめ

本事業を通じて分かったこと・課題

本事業を通じて、分身ロボット OriHime を用いた分かったこと、課題についてまとめます。

■業務内容について

| 分かったこと | 課題 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションツールとして接客業務に向いている <p>⇒ともに生きる社会かながわ憲章のPRに有効であった。市の広報誌や、新聞、タウン誌などにも多く掲載されるなど副次的効果もあり。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・オフィスワーク・非定形の業務には不向き <p>⇒業務内容目的により、<u>使い分け</u>をすることも一案である。 (例：定型的な接客業務は OriHime/それ以外の業務については別のツールを用いる)</p> |

■パイロットについて

| 分かったこと | 課題 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・本格実施期の3年間でパイロット自身の確かな成長が見られた。 <p>⇒OriHime で、経験を重ねて、自信をつけながら、できることを増やしていくことができる。 <u>OriHime が社会参加や就労への第一歩となり、職域拡大、進路選択等、スキルアップしていくための、橋渡しの存在になる可能性</u>が見られた。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・パイロットは自宅から接続できるが、OriHime 本体は職員が毎度準備をする必要あり。 ・異なる場所で OriHime を実施する際には、職員が都度運搬（または郵送）する必要がある。 <p>⇒OriHime は陰ながら、パイロットをサポートする人（職員）の存在が不可欠である。</p> |

■設置場所について

| 分かったこと | 課題 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・1年間を通じて、同じ場所に常駐することにより、定着して、店舗の一員として受け入れられた。 ・イベントなどで集客につながった。 <p>⇒人が集まる場所では、<u>常駐での設置、イベントでの単発設置においても有効である。</u></p> | <ul style="list-style-type: none"> ・通信環境（※）に左右される。地下や壁が厚い場所は繋がりにくい。イベント出展する際には事前の電波確認が不可欠。 ・お祭りなど、にぎやかな場所や大人数の方がいる場面や屋外など、周りの音が大きい場所や濡れる場所では設置が難しい <p>⇒<u>OriHime の特性にあわせた場所の選定が必要である。</u></p> |

※ 県庁や市庁舎内及びイベント会場はセキュリティや通信に必要な容量の関係上、OriHime に施設の Wifi を接続することができなかった。ポケット Wifi を用いたが、場所によって電波レベルが異なった。



【資料編】Q&A

神奈川県では令和2年度からの事業開始後、多くの自治体・企業などからお問合せをいただきました。特に多かった質問と、回答について掲載します。

Q1
分身ロボット OriHime を県で導入したきっかけは？

A1
障がい者等の就労・社会参加に向けた新たなモデルとして、社会に展開の可能性を示すことを狙いとして開始しました。

Q2
他の自治体と神奈川県の取組みに違いはあるのか？

A2
神奈川県では OriHime のパイロットとして、県内に在住の移動が困難な障がい者を県職員（会計年度任用職員）として雇用しています。
他の自治体の実施例の多くでは、オリイ研究所に所属して、全国に在住している方が、OriHime のパイロットを務めています。

Q3
分身ロボット OriHime のリース料は県が負担しているのか？

A3
県がオリイ研究所と機器のリース契約を結び、必要な費用を負担しています。
一般的なリース料は1台あたり、月額41,000円（税込45,100円）＋送料梱包手数料となっています。

※令和6年度時点 オリイ研究所に確認
<https://orihime.orylab.com/biz/pricing.html>

Q4
分身ロボット OriHime のパイロットはどのように募集したのか？

A4
ハローワークの障がい者求人に登録して、幅広く募集を行いました。

Q5
パイロットの勤務時間を週3日、1日3時間とした理由は？

A5
令和2年度にオリイ研究所の協力の下、試行を行った際、オリイ研究所のパイロットの方からの感想・助言を得ました。
パイロットを務める方の体調や設置場所での業務内容を考慮して、週3日、1日3時間として設定しました。

Q6
令和6年度からオリヒメの勤務が週2日になったのはなぜか？

A6
令和4・5年度は週3日 OriHime での勤務を行っていました。令和6年度は、勤務日のうち1日は、パイロットであるみさきさんに本報告書の作成や、それに伴う打合せや連絡調整、授業の台本作成といった事務業務を行ってもらうため、OriHime での勤務は週2日になりました。

Q7
雇用しているパイロットは障害者雇用率に算定されているか？

A7
今回の取組は障害者雇用率として、算定されていません。
※障害者雇用率制度の対象となる方の週所定労働時間は20時間以上になります。
（令和6年4月以降は週所定労働時間が10時間以上20時間未満の重度身体障害者、重度知的障害者及び精神障害者で

ある特定短時間労働者は0.5人としてカウントされるようになりました。)

Q8
分身ロボット OriHime-D (分身ロボットカフェなどで使用している全長約120cmのロボット)は使用しないのか？

A8
オリ研究所では、分身ロボット OriHime-D は、一般販売、リースを行っていません。(令和6年12月現在)
本県では広く展開を目指していくために、一般にリースが行われている分身ロボット OriHime を用いています。

【資料編】分身ロボット OriHime とは

株式会社オリ研究所が開発した分身ロボットです。

カメラ・マイク・スピーカーが搭載されており、インターネットを通して操作が可能です。

移動の制約があっても「行きたい場所」に OriHime を置くことで、その場の風景を見たり、その場の会話に、声や身振りでリアクションをするなど、あたかもその人がその場にいるようなコミュニケーションが可能です。

【サイズ】高さ 23 cm、幅 17 cm、奥行 11 cm

【重量】680g

【電源】AC 電源アダプター入力

【カメラ】720p HD 水平画角 103°カメラ

株式会社オリ研究所ホームページ

<https://orylab.com/>



※OriHime は株式会社オリ研究所の登録商標です。

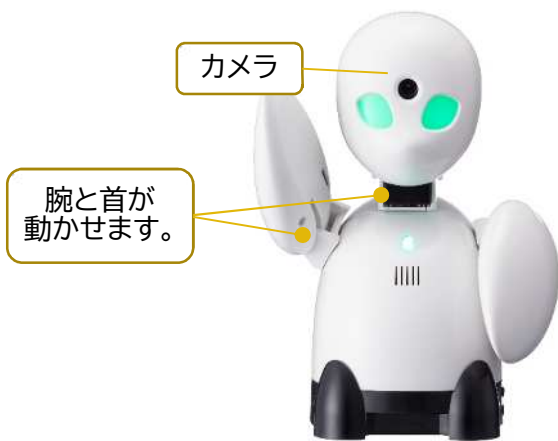
(みさきさん)

OriHime を操作するには専用のアプリをダウンロードします。私はパソコンから行っていますが、タブレットやスマートフォンからも操作をすることができます。ユーザーアカウントとパスワードを入力すると、直ぐに操作の画面に移ります。

OriHime には、右側にモーションボタンがあります。うなづく、小さく2回うなづく、首を横に振る、手を挙げる、手を振る、拍手するといった動作を選ぶことができます。

私が好きなモーションは「なんでやねん」です。

操作自体は簡単ですが、初めの際は喋りながら、同時にモーションの操作をすることに苦労しました。慣れてくると、次第に会話の内容にあわせて、モーションを選べるようになりました。



©OryLabInc.



パイロット側から見える画像



ともに生きる社会

かながわ憲章

- 一 私たちは、あたたかい心をもって、すべての人のいのちを大切にします
- 一 私たちは、誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現します
- 一 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる壁、いかなる偏見や差別も排除します
- 一 私たちは、この憲章の実現に向けて、県民総ぐるみで取り組みます

平成28年10月14日 神奈川県



翔子

題字「ともに生きる」
書家 金澤翔子
(ともに生きる社会かながわ応援大使)

本県の取り組みや金澤翔子さんの席上揮毫の動画などは、
こちらから [ともに生きる社会かながわ](#) 検索



この憲章は神奈川県と神奈川県議会が共同して策定したものです。



神奈川県